

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：30108

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00478

研究課題名（和文）伝承文化の総合的記述の試み：北ロシアのフォークロア調査資料に基づいて

研究課題名（英文）A comprehensive compilation of folklore culture founded on materials from Northern Russia: A proposal.

研究代表者

塚崎 今日子 (Kyoko, Tsukazaki)

北海道科学大学・未来デザイン学部・准教授

研究者番号：20347727

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主な成果としては、冊子『北ロシアの暮らしとフォークロア：アルハンゲリ斯克州上トイマ地区日露フォークロア調査より』（丸善雄松堂、2023年3月）の刊行と、Webサイト「日露合同上トイマ地区フォークロア調査：」の構築、および冊子内で言及したマルチメディア資料の限定的な公開が挙げられる。

当初の計画から多々変更点はあったものの、「身体性を備えた総合的なパフォーマンスとしてのフォークロア」を提供するという目標、そして上トイマのフォークロア伝統の記録を伝承者自身や地域の人々に還元するという目標は達成できたと思う。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1990年代はロシアの社会的混乱期にあたり、ロシア人研究者は財政的理由などによりフィールド調査を実施するのが困難な時期であった。本研究が基盤とする上トイマ地区のフォークロア調査はまさにこの時期に始まっている。こうしたことから、これらの成果はロシア人研究者にとっても抜けた時代の穴を埋める重要な学術的情報を含んでいるといえる。

また、本研究が目指すフォークロア資料の整理・保管・提示の形態は、組織主導の大規模な方法とは一線を画し、個人情報やインフォーマントの権利に十分配慮しつつ、利用者に丁寧な情報提供を行うという点で極めて日本的な細やかさを備えている。こうした点も独自の成果として指摘できよう。

研究成果の概要（英文）：The main achievements of this research include the publication of the book "Life and Folklore in Northern Russia: A Study of Folklore in the Upper Toyma District of Arkhangelsk Oblast" (MARUZEN-YUSHODO, March 2023), the development of the website "Joint Japanese-Russian Folklore Study in the Upper Toyma District:", and the limited public release of multimedia materials mentioned in the book.

Although there have been several changes from the initial plans, We believe that the goals of providing "folklore as a comprehensive performance with embodied aspects" and returning the documentation of folklore traditions in the Upper Toyma District to the practitioners themselves and the local community have been achieved.

研究分野：ロシア・フォークロア

キーワード：北ロシア フォークロア アーカイブ マルチメディア資料

1. 研究開始当初の背景

ロシアや欧米各国では、大学や研究所の「フォークロア部門」が民衆文化のオーラルな分野を中心に音楽や舞踊、物質文化を含めて扱っていることが多い。各機関では毎年の現地調査の成果を論文や学会で発表し、採録資料の体系的な記録と保管を行っており、これらの資料には当該研究所の許可があればアクセスすることができる。現在では国立の図書館や博物館が所蔵する各種資料のデジタル化と公開も進んでいる。こうした資料の公開に関する倫理規定は緩く、ユネスコの無形文化遺産保護のための倫理原則が参照される程度である。

一方、日本では、少なくとも海外にフィールドを持つ民族学・文化人類学の研究者は、基本的にその調査資料を個人で管理し、論文や著作の参考資料として提示する以外積極的に発表しない。それはアーカイブ機関や出版社がないためだけでなく、一次資料を公開することに意義を認めない立場やインフォーマントの権利への配慮の現われでもある。だが、インフォーマントが研究者に伝えた内容を研究者が記録しながら死蔵することは、時にインフォーマント自身の意図に反し、インフォーマントが受けるべき利益を守るべしと謳う上掲のユネスコの倫理原則の「第7」に反するとも言える。

こうした状況から、現代日本のフォークロア研究が目指すべき一つの方向性として、蓄積された資料をアーカイブ化し、インフォーマントおよび地域の人々に還元し、国内外の研究者の利用に供することが考えられた。そしてそれは、近年の調査資料には録音や録画も豊富にあることから、文字だけではなく、音声や身体動作、場や歴史的背景をも伝える一連のデータの総体という形になるべきであるとの考えに至った。

2. 研究の目的

本研究グループは、1995年～2019年に北ロシアにあるアルハンゲリスク州上トイマ地区で5回に亘ってフォークロア調査を実施し、歌謡、伝説、民話の他、伝統的な暦上儀礼や人生儀礼に関する情報、さらに歌や踊りの動画、伝統家屋の構造や道具の使用法、村内の風景の写真や動画を多数記録してきた。これらの資料は、これまで本研究グループメンバー各自の専門に従って取り上げ、論文や発表において活用してきた。

一方、フォークロアの伝統は全般的に、生活習慣の変化やインフォーマントの高齢化により、現在では衰退の危機に直面しており、上トイマ地区においても同様の状況が見られる。そこで、「北ロシアの貴重なフォークロアの伝統文化を、学術的・文化的見地から見て最も望ましい形で留めるために、日本の研究者に今できる最善のことは何か」という問題意識を掲げながら、当地のフォークロア伝統の総合的な記録を可能な限り完全な形で保存する最善の方法を模索し、それを実行に移し、国内外の研究者で共有できる形にすると共に、伝承者自身や地域の人々に還元することを目的として研究活動を進めてきた。

3. 研究の方法

作業としては、5回にわたって実施されたフォークロア調査で採録された全資料を整理・分析しデジタルアーカイブを構築。それに基づいてマルチメディア資料集を作成することを目指した。このマルチメディア資料集をどういった形で作成するかについては試行錯誤を重ねた。当初はDVDでの配布を想定していたが、インターネット上での動画配信や電子書籍が当たり前の時代となったことから、最終的に、それぞれの専門に沿った論文を収めた調査成果集を出版し、提示したURLおよびQRコードから、論文に関わるデジタル資料[音声・画像・動画・文字起こし資料(和訳付き)]を視聴できる形とした。

4. 研究成果

当初の予定としては、研究作業そのものは2019年度に開始し、3年の研究期間中に資料のデジタル化と文字起こしを完了し、マルチメディア資料集の構築を行うことになっていた。また、それらの作業と並行して現地調査を実施し、資料不足や不明点を補い、調査協力者やご家族から資料公開許可をとり、現地の研究協力者たちとチェックを重ねる計画であった。しかし、2019年末に発生し、その後3年間に亘り全世界を混乱に陥れた新型コロナウイルス感染症の感染拡大、さらに2022年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が開始し、ロシアでの現地調査は白紙となった。

こうしたなか、現状で進められることを模索した結果、調査概要および各自の専門に沿った論文を収めた論文集『北ロシアの暮らしとフォークロア』(丸善雄松堂、2023年3月)(図1)を執筆、刊行することとなった。本書は、「地図」「村グループ表・地図」「はじめに」「凡例」「序章 ロシアから見



図1:『北ロシアの暮らしとフォークロア』表紙

た本研究の意義」「第1章 調査概要」「第2章 チャストゥーシカに見る上トイマ地区の暮らしと歴史」「第3章 食の文化 森と川と菜園の恵み」「第4章 村落と家屋・そこに棲む妖怪たち」「第5章 冬の来訪神シュリーギン(シュリクン)」「上トイマの地理と歴史」「おわりに」から成り、上トイマ地区に関する基本的な情報を押さえた上で、当地の日常的な暮らしと伝統文化について専門的な視点を通して深く理解ができるよう配慮されている。

序章においては、現地のロシア人研究協力者たちの視点から、日露合同フォークロア調査および本研究が持つ意義が述べられている。

第1章においては、実施された調査の様子が具体的に伝わるよう、1995年、1996年、2000年、2015年、2019年の各調査における「調査日程」「メンバー」「調査方法」「採録されたフォークロアと語り手たち」「印象深いエピソード」等が記されている。

第2章においては、研究分担者の熊野谷が、チャストゥーシカ(短い民謡の一種)についての基本的知識を紹介した上で、上トイマ地区で採録されたチャストゥーシカのテーマ的、およびパフォーマンスされる際の特徴について、豊富な例を挙げつつ分析している。

第3章においては、研究分担者の中堀が、上トイマ地区の食を取り上げ、食にまつわる伝統や特徴的な料理、森や川、そして菜園からの豊かな恵みを生かした食文化について詳細に報告している。

第4章においては、研究分担者の山田が、上トイマ地区における伝統的な建築様式や建物の種類を整理した上で、家屋に棲むとされる妖怪にまつわる多様な語りについて検討した。

第5章においては、研究代表者の塚崎が、上トイマ地区のフォークロアに登場する「シュリーギン」と呼ばれる異界的存在を取り上げ、先行研究を踏まえた上で、その特徴を整理し、類似の異界的存在との関りについて考察した。

また、本論文集の執筆・刊行と並行して、Webサイト「日露合同上トイマ地区フォークロア調査 ВТАЯРФЭЭ (Верхнетоемский архив японско-русски фольклорно-этнографических экспедиций)」(図2)を構築し、論文集内で言及したマルチメディア資料を限定的に公開した。それらの資料における個人情報の公開については、現地研究協力者を通じ、調査協力者とそのご家族から承諾を得ている。

当初の計画からは数々の変更点はあったものの、論文や文字情報と合わせ、Webサイト上で、目と耳を通して語り手や演者たちの表情や身振り、声音や抑揚、その場の空気や息遣いに触れられる形にしたことで、「身体性を備えた総合的なパフォーマンスとしてのフォークロア」を提供するという本研究の大きな目標のひとつは達成できたと考える。

一方、1990年代はロシアの社会的混乱期にあたり、ロシア人研究者は財政的理由などによりフィールド調査を実施するのが困難な時期であった。本研究が基盤とする上トイマ地区のフォークロア調査はまさにこの時期に始まり、初期調査では1990年代生まれのインフォーマントから話を聞くこともできた。こうしたことから、これらの成果はロシア人研究者にとっても抜けた時代の穴を埋める重要な学術的情報を含んでいるといえる。

また、本研究が目指すフォークロア資料の整理・保管・提示の形態は、アーカイブ研究が比較的進んでいる欧米諸国の先行研究や実践の成果に学んではいるが、組織主導の大規模な方法とは一線を画し、個人情報やインフォーマントの権利に十分配慮しながら、利用者に丁寧な情報提供を行うという点で極めて日本的な細やかさを備えている。こうした点も独自の成果として指摘することができよう。

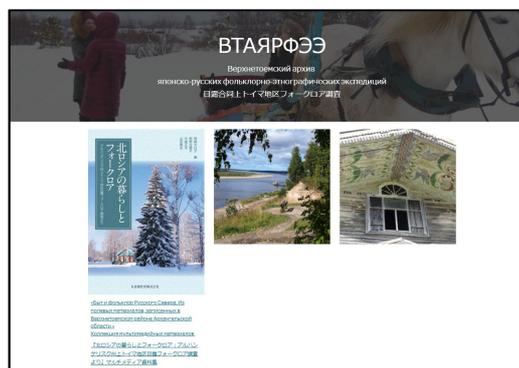


図2: Webサイト「日露合同上トイマ地区フォークロア調査」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 塚崎今日子 | 4. 巻 53 |
| 2. 論文標題 シュリクンとポルードニツァを繋ぐ環としてのヴォジョ 「フライバンを持つシュリクン」の考察から | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ロシア語ロシア文学研究 | 6. 最初と最後の頁 23-43 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32278/yaar.53.0_23 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中堀正洋 | 4. 巻 75 |
| 2. 論文標題 トイマの歴史 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 なるうど（ロシア・フォークロアの会報） | 6. 最初と最後の頁 45-48 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 熊野谷葉子 | 4. 巻 80 |
| 2. 論文標題 アルハンゲリスク州冬季フィールドワーク（中） | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 なるうど | 6. 最初と最後の頁 52-59 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 熊野谷葉子 | 4. 巻 81 |
| 2. 論文標題 アルハンゲリスク州冬季フィールドワーク（下） | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 なるうど | 6. 最初と最後の頁 46-53 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中堀正洋 | 4. 巻 80 |
| 2. 論文標題 上トイマ地区調査旅行記(下 ー) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 なるうど | 6. 最初と最後の頁 30-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 塚崎今日子 | 4. 巻 80 |
| 2. 論文標題 冬のヴォジョ、夏のヴォジョ | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 なるうど | 6. 最初と最後の頁 1-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 . | 4. 巻 102 |
| 2. 論文標題 - (1990- .) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 | 6. 最初と最後の頁 6 - 10 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 熊野谷葉子 | 4. 巻 79 |
| 2. 論文標題 アルハンゲリスク州冬季フィールドワーク(上) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 なるうど | 6. 最初と最後の頁 1-11 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中堀正洋 | 4. 巻 78 |
| 2. 論文標題 ロシア・アルハンゲリ斯克州上トイマ地区調査旅行記(中-二) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 なるうど | 6. 最初と最後の頁 46-53 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 . | 4. 巻 102 |
| 2. 論文標題 . | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 . | 6. 最初と最後の頁 13-15 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 . | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 . | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 . | 6. 最初と最後の頁 274-283 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 . | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 1930-1940- ゲリ斯克州上トイマ地区における1930-1940年代の森林労働者のチャストウーシカと語り)。(アルハン | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 IV | 6. 最初と最後の頁 128-132 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 熊野谷葉子 |
| 2. 発表標題 : . （ピネガ人に関する語りとピネガ人自身の体験談：特定地域の民俗への内外の視点） |
| 3. 学会等名 V （第五回全ロシアフォークロア研究者大会）（国際学会） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中堀正洋 |
| 2. 発表標題 現代ロシアの歳時儀礼 復活祭、スヴァートキ、マースレニツァ |
| 3. 学会等名 ロシア・フォークロアの会なるうど |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 熊野谷葉子 |
| 2. 発表標題 遠い隣人を語るフォークロア：ヴィーヤの世間話とヴィーヤについての世間話 |
| 3. 学会等名 日本ロシア文学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|----------------------|
| 1. 発表者名 塚崎今日子 |
| 2. 発表標題 ヴォジョとは何か？ |
| 3. 学会等名 日本ロシア文学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 中堀正洋 |
| 2. 発表標題 ロシアの狩猟 歴史・制度・文学 |
| 3. 学会等名 創価大学ロシア・スラヴ学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 塚崎今日子 |
| 2. 発表標題 フライパンを持つシュリクン考 |
| 3. 学会等名 日本ロシア文学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 山田徹也 |
| 2. 発表標題 現代に生きる家屋の妖怪信仰 |
| 3. 学会等名 日本ロシア文学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 熊野谷葉子 |
| 2. 発表標題 ロシアの俗謡チャストゥーシカが語るもの |
| 3. 学会等名 パブリックヒストリー研究会（慶應義塾大学東アジア研究所共同研究プロジェクト）研究報告会（オンライン） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 熊野谷葉子 |
| 2. 発表標題 チャストゥーシカの伝承と再生産に見るロシア・フォークロアの21世紀 |
| 3. 学会等名 日本ロシア文学会 ワークショップ「21世紀のロシアフォークロア」 |
| 4. 発表年 2022年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 塚崎今日子 [編]、熊野谷葉子、中堀正洋、山田徹也 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 丸善雄松堂 | 5. 総ページ数 243 |
| 3. 書名 北ロシアの暮らしとフォークロア | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>Toima Expedition Team https://turquoise-crime-27c.notion.site/Toima-Expedition-Team-9c8e1f47f29b493db79733817054b132</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 熊野谷 葉子 (Kumanoya Yoko) (70581784) | 慶應義塾大学・法学部(日吉)・教授 (32612) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 中堀 正洋 (Nakahori Masahiro) (70460087) | 創価大学・文学部・准教授 (32612) | |
| 研究分担者 | 山田 徹也 (Yamada Tetsuya) (00750340) | 立教大学・外国語教育研究センター・特任准教授 (32612) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |